

営農ウィークリーNEWS

2024年度 府内営農指導活動実績報告会



11月5日、京都JAビルにて、JA京都中央会主催の「2024年度 府内JA 営農指導活動実績発表会」が開催されました。

府内5JAから4人の営農指導担当者が出場し、日頃の活動実績を発表されました。JA京都中央からは、経済部営農販売課の佐藤聖也担当が「気象変動に対応した新たな米づくりへの挑戦～高温耐性品種にこまるの導入～」と題して、水稻の高温耐性品種導入の取組における活動について発表し、優秀賞を受賞されました。

近年の温暖化や異常気象により、水稻の品質が低下していることに着目し、土づくりや土壌改良剤の施用など品質改善に取り組んだことや京都米振興協会、全農京都府本部米穀課と協議し、需要先への働きかけなど新たに高温耐性品種導入に向け、栽培技術対策など行政機関とも連携し取組んだことなどが高く評価されました

佐藤聖也さん、優秀賞受賞誠にありがとうございます！

TAC information

「京はたけ菜」栽培試験調査



11月7日、経済部営農販売課では、ブランド化を検討している「京はたけ菜」の試験栽培圃場で調査を行いました。

今回の試験は、「京はたけ菜」の品種特性や病害虫の耐性などを確認することを目的に行っています。

今後も、定期調査を行い、調査データは、技術対策や生産者への情報提供などに活用することとしています。

「京おくら」オオタバコガ被害調査



11月6日、経済部営農販売課では、淀支店管内の「京おくら」栽培圃場で「オオタバコガ」の発生調査を行いました。

同調査は、「京おくら」の圃場に夜間、黄色LED光を照射し、「オオタバコガ」の防除効果を確認するものです。

9月から毎週1回、黄色LED光設置区と未設置の対象区の2か所に設置したフェロモントラップと圃場の被害状況の調査を生産者の協力により、関係機関と行ってきました。

今回で圃場調査は終了し、黄色LED光設置区と対象区での被害状況のデータを分析し、2025年1月に開催する「京おくら生産者技術交流会」で報告することとしています。

京の伝統野菜「京山科なす」優良種子を確保



11月6日、経済部営農販売課は、2025年に作付けする「京山科なす」の採種作業を行いました。

「京山科なす」は、京の伝統野菜の一つで、1998年に京都府のブランド産品として認証され、毎年、生産者とJAや関係機関の協力により、翌年に栽培する種子を収穫が終わる時期に合わせて確保しています。

「京山科なす」は、果皮が柔らかく傷つきやすい弱みがあるが、果肉がぎっしり詰まっっていて、煮ても焼いてもうまみがあり漬物にしても良いなど、京の伝統野菜の中でも人気があります。

当日は、大山崎支店管内の圃場から採種用の果実を収穫し、洗浄・乾燥後、病害虫などの被害のない良質なものを選別しました。

今後、「京山科なす」の種子は、全農京都府本部を通じて、委託先の育苗業者で育苗され、4月上旬に生産者に苗が配布される予定です。